

はじめに

1 21世紀いきいきハイスクール推進計画（後期）策定の趣旨

県教育委員会は、生徒数の減少をはじめとする、多様化する教育ニーズや中途退学の問題などの様々な課題に対応し、県立高校の活性化・特色化を図り、学校をいきいきとさせていくため、平成12年3月に、県立高校の将来構想としての「21世紀いきいきハイスクール構想」を策定した。

この構想は、平成11年度から平成25年度までの15年間を期間とするとともに、5年ごとに前期、中期、後期とし、それぞれ、構想実現に向けた具体的な施策を示す「推進計画」を策定することとしている。

このたび、後期の5年を迎えるに当たり、中期以降の社会状況の変化、国の教育改革の動向、本県における「ゆとりとチャンスの埼玉プラン（埼玉県5か年計画）」、「生きる力と絆^{きずな}の埼玉教育プラン（埼玉県教育振興基本計画）」などを踏まえた新たな施策などを推進するため、「21世紀いきいきハイスクール推進計画（後期）」を策定することとした。

なお、策定に当たっては、幅広い視野から検討するために学識経験者などで構成する「21世紀いきいきハイスクール推進計画懇談会」を設置するとともに、県民コメント制度により、県民からの意見募集を行った。

2 計画策定までの経緯

年 度	経 緯
平成10年度	県立高校将来構想懇話会 県立高校の将来構想について（報告）
平成11年度	「21世紀いきいきハイスクール構想」の策定 県立高校のあるべき姿と今後の施策の基本的な方向を示した
平成12年度	「21世紀いきいきハイスクール推進計画」の策定 「構想」に基づく具体的な施策などについて、前期を中心に示した
平成13年度	「前期再編整備計画」の策定 「推進計画」に基づく、県立高校の統合計画など
平成15年度	「21世紀いきいきハイスクール推進計画（中期を中心とした計画）」の策定 「構想」に基づく具体的な施策などについて、中期を中心に示した
平成16年度	「中期再編整備計画（第1期）」の策定 「推進計画（中期を中心とした計画）」に基づく、県立高校の統合計画など
平成18年度	「中期再編整備計画（第2期）」の策定 「推進計画（中期を中心とした計画）」に基づく、県立高校の統合計画など
平成20年度	「21世紀いきいきハイスクール推進計画（後期）」の策定 「構想」に基づく具体的な施策などについて、後期を中心に示した

3 計画の期間

この計画の期間は、平成21年度から平成25年度までの5年間とする。

区 分	期 間	推進計画の策定期
前 期	平成11年度から平成15年度まで	平成13年3月
中 期	平成16年度から平成20年度まで	平成16年3月
後 期	平成21年度から平成25年度まで	平成21年1月

4 中期までの実施結果

「21世紀いきいきハイスクール推進計画」の中期までの主な実施結果は、次のとおりである。

(1) 明日をになう彩の国の人づくり ―教育活動の充実―

ア 学習指導の充実

- 自ら学び、自ら考える力などを育成する観点から、各学校で「総合的な学習の時間」や体験活動を充実するとともに、学校外における学修の単位認定を充実・普及した。
- 学力向上実践推進校を委嘱し、実践推進校での授業改善などの取組成果を研修などを通じて各学校に普及した。
- 海外の高校との交流を推進するとともに、教育用コンピュータや情報通信ネットワーク、理科実験機器の整備を進めた。

イ 心と体の教育の充実

- ボランティア活動を推進するとともに、専門分野の社会人を講師に迎え、生徒の心に響く道德教育を推進した。
- 授業において学習カードを活用し、体力向上を目指した体育的活動を促進するなど、自ら運動する意欲をはぐくむ取組を充実した。
- いじめ問題では、ネットいじめなどの緊急対策事業を実施し、不登校対策では、カウンセラーや電話相談員を活用した相談体制を充実した。
- 中途退学の防止では、進路指導における中学校と高校の連携を強化し、「自分発見！高校生感動体験プログラム事業」の実施などにより、学校への適応を進めた。
- やむを得ず中途退学や進路変更をした生徒に対して、転編入学制度の弾力的運用を行うなど、再び学べるシステムを活用した。

ウ ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進

- 障害のある生徒と障害のない生徒が学校行事などを通して交流し、「心のバリアフリー」をはぐくむ教育を行った。
- 高校における特別な支援を必要とする生徒に対する理解を深めるため、教師及び保護者向けのリーフレットを作成・配布した。
- 県立高校内に特別支援学校の分校を設置するとともに、エレベーターなどバリアフリーに対応した施設整備を行った。

エ 進路指導の充実

- 大学への体験入学や聴講制度、企業でのインターンシップを充実させるなど、「志を育てる教育」を推進した。
- 「高校生専門資格等取得表彰奨励事業」により職業資格の取得を推進するとともに、高等学校就職支援教員や就職支援アドバイザーを配置するなど、各学校における就職指導の取組に対して支援を行った。
- 進学希望の多い高校を中心に、進学指導推進校 11 校を指定し、実践的な研究を実施した。

オ 部活動などの充実

- 運動部活動を推進する上での課題と対応を示した、「運動部活動 Q & A ・ II」を作成・配布するとともにホームページに掲載した。
- 運動部活動指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させるとともに、地域の専門的な外部指導者を活用した。
- 生徒数の減少などに対応するため、近隣学校間での合同部活動を推進した。

(2) 彩りゆたかな高校づくり ― 県立高校の再編整備 ―

ア 適正規模の確保

- 1 学年当たりの適正な規模を、普通科高校と総合学科高校は 8 ～ 6 学級、専門高校は 6 学級と定め、その確保に努めた。

イ 学校の特色化

- 少人数学級編制や二学期制の導入、授業時間の弾力化を推進した。
- 普通科高校では、学校からの企画提案による特色化を実施し、各学校の創意工夫による教育活動を推進するとともに、進学指導に重点を置いた学校による協議会を設置し、指導体制を改善した。
- 専門高校では、大学や企業との連携による先端技術などの授業やインターンシップを推進した。また、入学者選抜において、入学後に学科を選択するくくり募集を実施した。

ウ 特色ある学校の設置（再編整備計画）

- 「前期再編整備計画」

平成 13 年度 統合による再編整備校（4 校）（※開校は平成 17 年度）

滑川総合高校（総合学科）
戸田翔陽高校（総合学科）昼夜開講の定時制独立校
秩父農工科学高校（農業科・工業科・家庭科）
進修館高校（普通科・総合学科・工業科）

平成 14 年度 常盤高校 看護に関する 5 年一貫教育校
平成 15 年度 越ヶ谷高校、坂戸西高校に単位制を導入
伊奈学園総合高校 中高一貫教育校（併設型）
小鹿野高校（総合学科） " （連携型）

○「中期再編整備計画（第１期）」

平成１６年度 統合による再編整備校（６校）（※開校は平成２０年度）

寄居城北高校（総合学科）
誠和福祉高校（福祉科・総合学科）
新座柳瀬高校（普通科）
鶴ヶ島清風高校（普通科）
上尾鷹の台高校（普通科）
狭山緑陽高校（総合学科）昼夜開講の定時制独立校

平成１７年度 朝霞高校に単位制を導入

○「中期再編整備計画（第２期）」

平成１８年度 統合による再編整備校（３校）（※開校は平成２２年度）

栗橋新校*（普通科）
蓮田新校*（普通科）
吹上新校*（総合学科）昼夜開講の定時制独立校

*○○新校は仮称である。

平成２０年度 不動岡高校に単位制を導入

（３）信頼にこたえる開かれた学校づくり ―教育諸条件の整備―

ア 学校の管理・運営

- すべての県立高校に「学校評議員制度」を導入するとともに、「学校評価システム」を実施した。また、学校の自己評価に関する取組を評価する「学校の第三者評価システム」を導入した。
- 学校に企画委員会を置くこととし、主幹を配置してさまざまな教育課題に一層迅速・的確に対応できるようにした。
- 経営能力を有する民間人を校長として登用し、５校に配置した。
- ４校で中学校と高校間の教頭の人事交流を行った。

イ 教職員の採用・配置等の改善

- 教員採用選考試験において、面接委員に民間有識者を導入するとともに、人物重視の選考を行うため、一次試験から面接を導入した。
- 教員の人事異動において、校長が目指す学校像を公開して教員を募集する制度を導入した。
- 新たな人事評価制度を導入するとともに、指導が不適切な教員に対しては、学校研修や社会体験研修などを実施した。

ウ 教職員研修の充実

- 10年経験者研修及び20年経験者研修を導入し、教職員一人一人のライフステージに応じた研修体系の整備を行った。
- 年次研修における社会体験・ボランティア体験などを充実し、民間企業等派遣研修やリーダーのためのチャレンジ体験研修などを実施した。
- 4つの重点研修（集団活動、食農教育、読書活動、プレゼンテーション）を実施した。

エ 学習環境の整備・充実

- 生徒、教職員の安全確保や既存施設の効率的な活用のため、計画的に耐震補強や改修などを実施した。
- ゆとりやうるおいのある学校施設とするため、バリアフリーに対応した施設の整備に取り組んだ。

オ 生涯学習社会・生涯スポーツ社会への対応

- 学校教育において、地域で活躍する社会人の活用を促進した。
- 県立学校の図書館、音楽施設、運動場、体育館、テニスコート、プールなどを地域に開放した。
- 県民の学習ニーズに応えるため、公開講座の拡充に取り組んだ。